



# 私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.38

## 釣り好きが高じて 釣りガイド&民宿で起業

元JR職員

金子 哲也さん (62歳)

2018年3月定年退職

【かねこ・てつや】1976年日本国有鉄道に入社後、同社の民営化に伴い1987年東日本旅客鉄道株式会社に再就職。電力関係の現場などで勤務後、定年退職。大の釣り好きであったことから、職場での愛称は“ハマちゃん”。釣りの魅力は「釣りに行くまでのプロセス」。



—金子さんはJR東日本の社員だったようですが、どんな仕事をされていたのですか。

鉄道事業の中でも特殊な、電鉄用変電所の管轄部門をメインに42年間勤めました。60歳の定年後、再雇用で働くか趣味を活かした釣りガイドを仕事にするか悩んだ末、始めるなら体力があるうちにといい、移住と起業を決断しました。退職後1年の準備期間を経て、令和元年5月、北海道清里町で民宿「知床フィッシングガイド&コテージねこのしっぽ」を開業しました。

—そのことについて、ご家族の反応は？

妻は「これまで頑張って仕事をしてきたのだから、定年後は好きなことをしてもいい」と言ってくれました。

—なぜ、北海道だったのですか。

釣りを本格的に始めた20代の頃は、栃木県や福島県へよく溪流釣りに出かけました。子どもに手がからなくなつてからは、妻と2人で山形県小国町の民宿を拠点に、月2〜3回のペースで溪流釣りを楽しんでいました。

北海道で最初に釣りをしたのは50歳の時です。私たち夫婦と釣り友達親子の4人で、北海道の道東にある標津町で鮭釣りをしました。そこで本州では見たことのない大きな魚を釣ったのが衝撃的で、以来、毎年のように北海道へ釣りに出かけました。

ホテル代を節約するため中古住宅の購入を考えていた時、インターネット検索で、

標津町から近い清里町にある温泉付き分譲地を見つけました。さっそく見学に行ったところ、近くの川で鮭の遡上を目のあたりにして感動しましたね。釧路市と網走市を結ぶJR釧網線の駅が徒歩圏内にあつて便利ですし、何よりも絶好の釣りポイントである斜里川に近く、オホーツク海をはじめ屈斜路湖、摩周湖、知床など道東の主な観光地も車で1時間で行ける点が気に入って、購入を決めました。

—民宿の開業に向けた準備は、どうされたのですか。

民泊と民宿のどちらにするか迷いましたが、営業日数に上限がなく食事の提供ができることから、民宿としての開業を決めました。民宿は旅館業法の簡易宿所に当たります。営業に必要な食品衛生法に関する資格は在職中に取得し、移住後は最寄りの保健所に簡易宿所の届け出をし、消防署で消防法令など細かく教えてもらいました。

開業資金については町役場のアドバイスを受けながら「起業・新事業創出支援事業補助金」を活用することができました。

—釣りガイドとしては、どんなことをされているのですか。

釣りを体験したいお客様に、釣り具一式を無料レンタルし、ご希望の魚種が最も釣れそうな釣り場に車でお連れして、餌釣りやルアー、フライフィッシングなどの釣り方のアドバイスをしています。



移住に賛同してくれた奥様と一緒に。「釣りの楽しみ方は人それぞれですが、私の場合は釣れなかった時こそ挑戦意欲が湧いてきて、次の釣りでの河川の選定や仕掛けの改良、餌の選別など釣りに行く前のプロセスがとても楽しい」と金子さん

大自然の中に建つ民宿「知床フィッシングガイド & コテージねこのしっぽ」。雪深い冬季にもお客様にお越しいただけるように計画中



ジビエのジンギスカン鍋など地産地消にこだわった民宿の料理

釣れた魚は自然保護のためリリース（放流）をお勧めしますが、持ち帰りを希望されるお客様にはご自宅へ発送しています。

——お客様はどのような方ですか。

釣りの初心者やご家族連れの方が多く、民宿に泊まって釣りと世界自然遺産・知床の観光をセットで楽しまれています。鮭のような大型トラウト釣りについては、ある程度釣りの経験があるお客様が多いですね。

——経営する上でこだわられていることや、心がけていらっしゃることは何ですか。

民宿では、お客様のプライベートな時間を楽しんでいただくことと、エゾ鹿肉のジンギスカン鍋や煮込みハンバーグなどジビエ料理、サクラマスなど地物の食材を使った料理のご提供にこだわっています。

釣りガイドとしては、気配りが行き届くよう1日1組限定と、気軽に釣りを楽しんでいただくことにこだわっています。

——民宿経営と釣りガイドの仕事で、大変なことは何ですか。

釣りガイドとしてお客様には魚が釣れた満足感を味わっていただきたいのですが、とは言えお客様の安全が最優先であり、河川の増水や天候の急な変化などで釣りを中止するかどうかを判断するのが難しいです。

また、宣伝や集客のためのパンフレットを作成したり、いくつかある予約サイトからダブルブッキングしないよう管理・運営する作業が大変ですね。

——やりがいを感じられるのはどんな時ですか。

釣りガイドとして、お客様からいただく「釣れた！」「良かった！」「また来るね」の一言が何よりも励みになります。

——北海道へ移住されて以降、どのような変化がありましたか。

精神面では、JRに勤めていた頃のように夜中に事故対応の携帯電話が鳴らずホッとしている一方、慣れない土地での風習や近所付き合いに四苦八苦しています。

健康面では、病院が遠い環境下で夫婦ともに持病があり、緊急時の不安があるのが正直なところですが。ただし、何があっても夫婦で対応しなければならぬ場面が多くなったせいか、夫婦ゲンカは以前に比べて少なくなりました。

——今後やりたいことはありますか？

開業して2年経ちますが、冬季の予約がありません。そこで、来期からは「冬の釣り」として氷穴釣りの釣りガイドができるよう、準備を進めています。

——最後に、現役世代の読者に向けてメッセージをお願いします。

私には釣りという趣味があり、その趣味を活かして第二の人生を送っています。この地で釣りを体験したい多くの方々のお手伝いをする中で、地域の活性化や発展に貢献できれば最高の人生です。私は仕事とは別の趣味を持つことが、たった一度の人生を楽しくする秘訣だと思います。